

保健体育科学習指導案

指導者 植田 一矢

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日（土） 第 1 校時（9：00～9：50）
- 2 学年・組 中学校第 3 学年 1 組 計 40 名（男子 15 名，女子 25 名）
- 3 場 所 中学校体育館
- 4 単 元 名 球技 バレーボール
- 5 単元について

本単元は、学習指導要領「E 球技」の「ネット型」に位置づけられており、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことに楽しみを味わうことができる運動である。第 3 学年では、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することを学習のねらいとしている。

生徒たちは練習やゲームを通して自己やチームの強みや課題を把握し、解決を図りながら作戦を立てる必要があるため、課題を発見する力、その課題の合理的な解決に向けて取り組み方を工夫する力、そして、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる力を養う活動を仕組むことができる。また、そのような活動の中で、自ら責任を果たしたり、互いに助け合ったりするなど、社会的に必要な態度も養うことができる。

これらの特性から、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、集団での課題解決能力の育成を図るために本単元を取り扱うことは大変意義深いと考える。

本学級の生徒については、保健体育の授業に明るく意欲的に取り組んでいる生徒が多い。普段の授業から運動の得意不得意に関わらず、学習目標の達成に向けて挑戦することができていた。しかし、心身の発達状況や小学校での運動経験等から、運動能力の二極化が見られるため、運動が苦手な生徒の技能習得には時間がかかると思われる。また 2 学年時には、バレーボールの授業の中で基礎的な技能習得学習は行っているものの、ネットを使ったゲーム形式の取り組みは行っていない状況である。

事前のアンケートによると「体を動かすことは好きですか？」では、「好き」が 28 名（70%）、「どちらでもない」が 6 名（15%）、「嫌い」が 6 名（15%）であった。「バレーボールは好きですか？」では、「好き」が 23 名（57.5%）、「どちらでもない」が 13 名（32.5%）、「嫌い」が 4 名（10%）であった。「バレーボールの授業は楽しみですか？」では、「はい」が 27 名（67.5%）、「いいえ」が 3 名（7.5%）であった。「バレーボールの経験がありますか？」では、2 名が経験歴をもっていた。内訳は、3 年以上が 1 名、1 年未満が 1 名である。アンケートの結果から、バレーボールに対して意欲的な生徒は多く、一方で専門的に経験したことがない生徒が多いことが分かった。

本単元の指導にあたっては、連動した動きによって、試合中にコートの中をめぐりながら攻防を展開する中で、課題を発見する力、その課題の合理的な解決に向けて取り組み方を工夫する力、そして自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を育成する。そのため、役割に応じた安定したボール操作が求められることから、序盤では基礎的な技能の習得に努める。そして、中盤から終盤に応じて三段攻撃の練習から、自己や仲間の課題解決のための学習活動を仕組んで計画を立て、実践していく。その際のミニゲームのルールでは、より三段攻撃の成功回数が増えるように自陣でパスをつないだ回数を得点とするなどの工夫をしたものとする。課題解決のための活動では、自己やチームの課題とその解決方法をチーム内で意見交換し、課題解決練習を活かし、単元を通してその変容を振り返ることとする。自己やチームの考えを整理し、他者に伝えるための手立てとして、学習カードや必要に応じて ICT を活用する。

6 教材（題材、単元）の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開すること。ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする、お互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

7 指導計画（全13時間）

次	時	学習内容
1	1	オリエンテーション、学習の進め方、ボール操作
	2	ボール操作①（オーバーハンドパス）
	3	ボール操作②（アンダーハンドパス）
2	4	三段攻撃（アタック）
	5	三段攻撃（レシーブ①）
	6	三段攻撃（レシーブ②）
	7	三段攻撃（トス①）（本時）
	8	三段攻撃（トス②）
	9	三段攻撃（アタック）
3	10	課題解決練習
	11	リーグ戦①
	12	リーグ戦②
	13	学習のまとめ

8 本時の目標

自分や仲間のつまづきを発見し、改善のポイントを他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	自己やチームの課題を発見し、改善のポイントを他者に具体的に伝えることができています。
Ⅱ	自己やチームの課題を発見し、改善のポイントを他者に伝えることができています。
Ⅰ	自己やチームの課題が発見しようとしている。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○ 実技の様子や撮影した動画、学習プリントの振り返りなどから、その生徒の実態を多面的に把握する。【授業構想力】	
○ 生徒の実態や学習環境に応じて、ゲームのルールに工夫する。【授業構想力】	
○ 学習の状況から学習者の実態を把握し、肯定的な動機付けや賞賛、技能の向上に寄与する技能的・矯正的なフィードバックを行う。また、生徒同士でアドバイスをするための見るべきポイントを提示することで他者の活動を分析する視点を育成する。【授業実践力】	

10 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（◆評価）
導入 10分 1. 集合 あいさつ 出欠確認 2. 準備運動 準備体操 ボール操作（ペア） 3. 学習のねらい 練習方法の確認 ○発問 「どんなトスが打ちやすい？」 自分や仲間のつまずきを発見し、改善のポイントを他者に伝えることができる。	○丁寧にしっかりとした動作で取り組むように声をかける。 ○体育係を中心に声かけをしながら、取り組むように声をかける。 ○周りに注意しながらボール操作を行うように声をかける。 ○グループで話し合わせて、発表。
展開 30分 4. チーム練習 （15～20分） 《レベル1》 サーブ→レシーブ→トス →ジャンプキャッチ 《レベル2》 サーブ→レシーブ→トス →ジャンピングパスアタック 《レベル3》 サーブ→レシーブ→トス →ソフトアタック 5. チーム対抗ミニゲーム （10分程度） 《ルール》 ・全員で三段攻撃が成功した回数を目指す。 ・レシーブ、トス、アタックの役割を決めてローテーションを行う。	○役割分担を確認。 6 or 7人グループ ①手投げサーブ、ボール拾い ②レシーブ、トス ③アタック ①②③を2または3人ずつで回す。 ※レベル1は4回ずつ、レベル2、3は6回ずつ必ず練習してローテーションで回る。1周回ったら、全員が成功したか確認。 【タブレットに入れておくもの】 ・練習内容の仕組み ・レベル1～3の合格例 ○10分ほど経過した段階で全体に進行状況を確認し、上手くしているグループの工夫を共有して、再度練習に取り組むようにする。 ◆自己やチームの課題を発見し、改善のポイントを他者に伝えている。【思考・判断・表現】（学習カード、行動観察） 【生徒の気付きから出てきてほしい課題】 ①ボールを受ける準備ができていない（1歩目が動いていない） ②ボールの落下点に入っていない ③額の上でボールをとらえていない ④膝の曲げ伸ばしを使えていない ⑤上げたい方向に足先、体が向いていない ○なかなか継続しない場合は、一度止めて1分間で作戦会議を行うように呼び掛ける。

ま と め 1 0 分	6. 本時の反省 振り返り 7. 次時の予告 8. 整列 あいさつ	○自己や仲間の課題を記入し，改善ポイントを記入するように声をかける。 ○生徒の意見を発表の場を設ける。 ○5. の活動から試合では臨機応変に対応していかないと得点につながらないので，得意なことだけではなく全員がいろいろな技能を身に付けていないといけないことを確認する。
--	--	---